

化石をたずねて（太古の歴史にロマンを感じて）

校長 濱田康助

今年は、ゴールデンウィークを利用して、以前（約25年前）に化石採取に訪れた岡山県の奈義町（なぎちょう）に行ってきました。

奈義町といっても多くの方はご存じないと思いますが、化石に興味のある人には有名な町（約1600万年前の巻貝「ビカリア」や二枚貝などの化石等が数多く産出する町）で、私も中学校で理科を教えていた頃に我が子連れで訪れたことのあるところなのです。

奈義町は、岡山県の北東部に位置し、鳥取県と境を接している町です。北部には町のシンボルであり、また、町名の由来となった那岐山（なぎさん）がそびえています。中国山地に位置して、町の大半が山林の町です。

◎奈義町で採取できる化石

奈義町で採取できる化石について、詳しくは『なぎビカリアミュージアム』のホームページ等をご覧いただきたいと思います。奈義町では、中新世の示準化石（年代を推定するための指標となる化石）としての「ビカリア」（巻貝）を代表とする、いろいろな貝化石が見られます。また、昔は簡単に採取もできていました。

『なぎビカリアミュージアム』は、平成10年にオープンし、奈義町周辺から採集された、ビカリアを中心に動植物の化石を多数展示しています。マングローブの生い茂った当時を再現したジオラマや地層の断面に露出した自然の状態（露頭）の化石など、いろいろと工夫した展示がなされた博物館です。また、簡単に化石採取を体験できる「発掘体験エリア」（有料）も常設され、小さな子どもの化石採取入門には適した施設だと思っています。

◎化石の魅力

化石については、小学校では6年生で学習します。

子どもたちにとっては、昔の生き物の代表として、恐竜に興味を持ちますが、化石は地球（大地や海など）の大地の大きな動きを感じさせてくれるものの一つとして、私は魅力を感じます。

昔、ビカリアが生きていた環境は、現在生きているよく似た巻貝がいる環境に近い環境（マングローブが茂るような浅い海で、熱帯から亜熱帯気候だった）と考えられます。また、現在の奈義町の標高は、240メートルぐらいですが、地層（化石）が海底でできることから、この化石の見つかった場所が、現在までに大地の動きによって、240m以上も持ち上がったことを意味しています。

このように化石は、私たちにその場所の古代の歴史や大地の動きを教えてくださいます。ですから、化石の採取は、とてもロマンのある活動だと思っています。しかし、この

化石採取も、マナー違反が目立ち、やりにくくなっています。マナーを守って、このような活動がやれるよう気をつけていきたいものです。

タテイワウミニナ（上）と
カキ（下）の化石



ヤマトビカリアの化石

